

AR 台本

製作

SUNRISE
バンダイビジュアル

THE グレート

48

ACT:18

The Great Villain

注 意

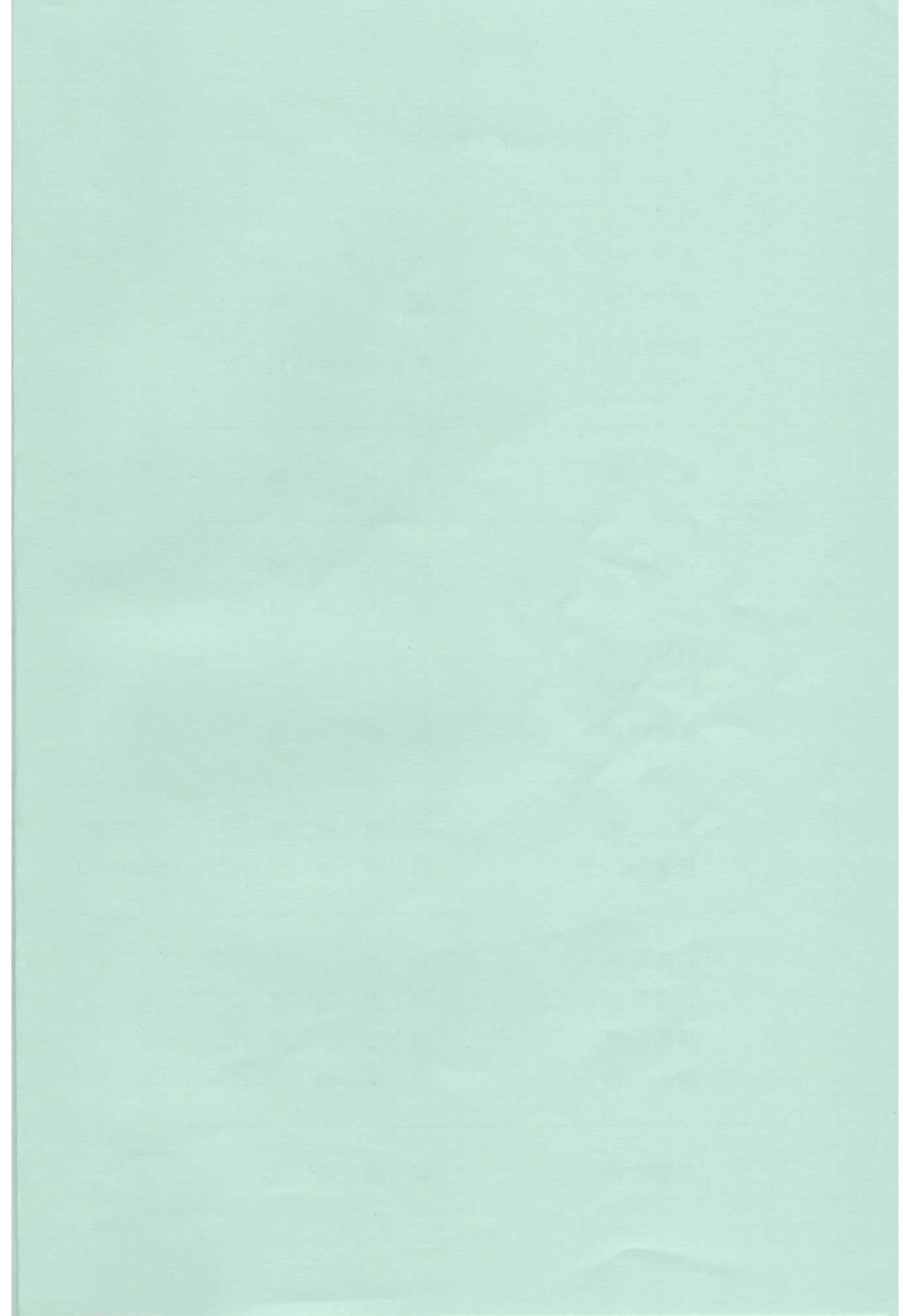
サンライズアニメ製作資料です。
無断で複製、有償・無償譲渡、貸与、
交換等した場合は、法律により罰せら
れる場合があります。

修証済



『神の名においてこれを鑄造する。汝ら罪なし』

〈12世紀のドイツの死刑執行人達の刀剣に刻まれた文字より〉



音響効果	庄 司 雅 弘 (フィズサウンド)
録 音	はた しょうじ
録音スタジオ	スタジオごんぐ
音響制作	楽 音 舎
音響制作担当	杉 山 好 美

ビデオ編集	キュー・テック
-------	---------

制作デスク	田 村 一 彦
アシスタントプロデューサー	石 川 達 大
プロデューサー	杉 田 敦
	内 田 健 二
	大 橋 千恵雄

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

PHYSICS DEPARTMENT



PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS DEPARTMENT

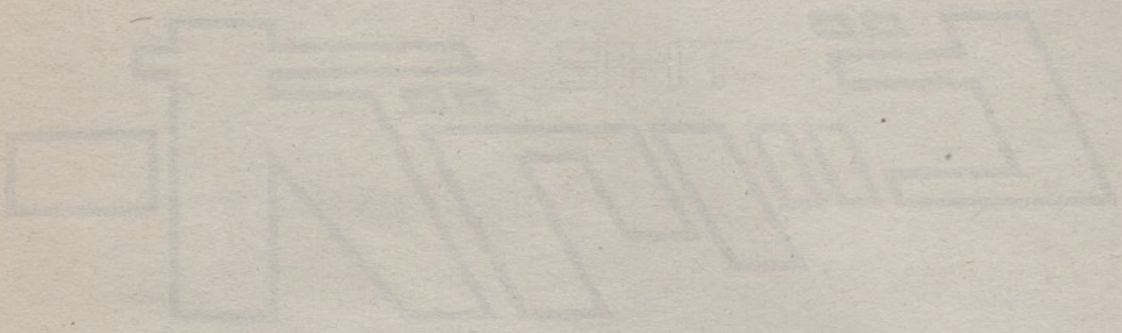
PHYSICS DEPARTMENT

THE GREAT VILLAIN

ACT: 18

The Great Villain

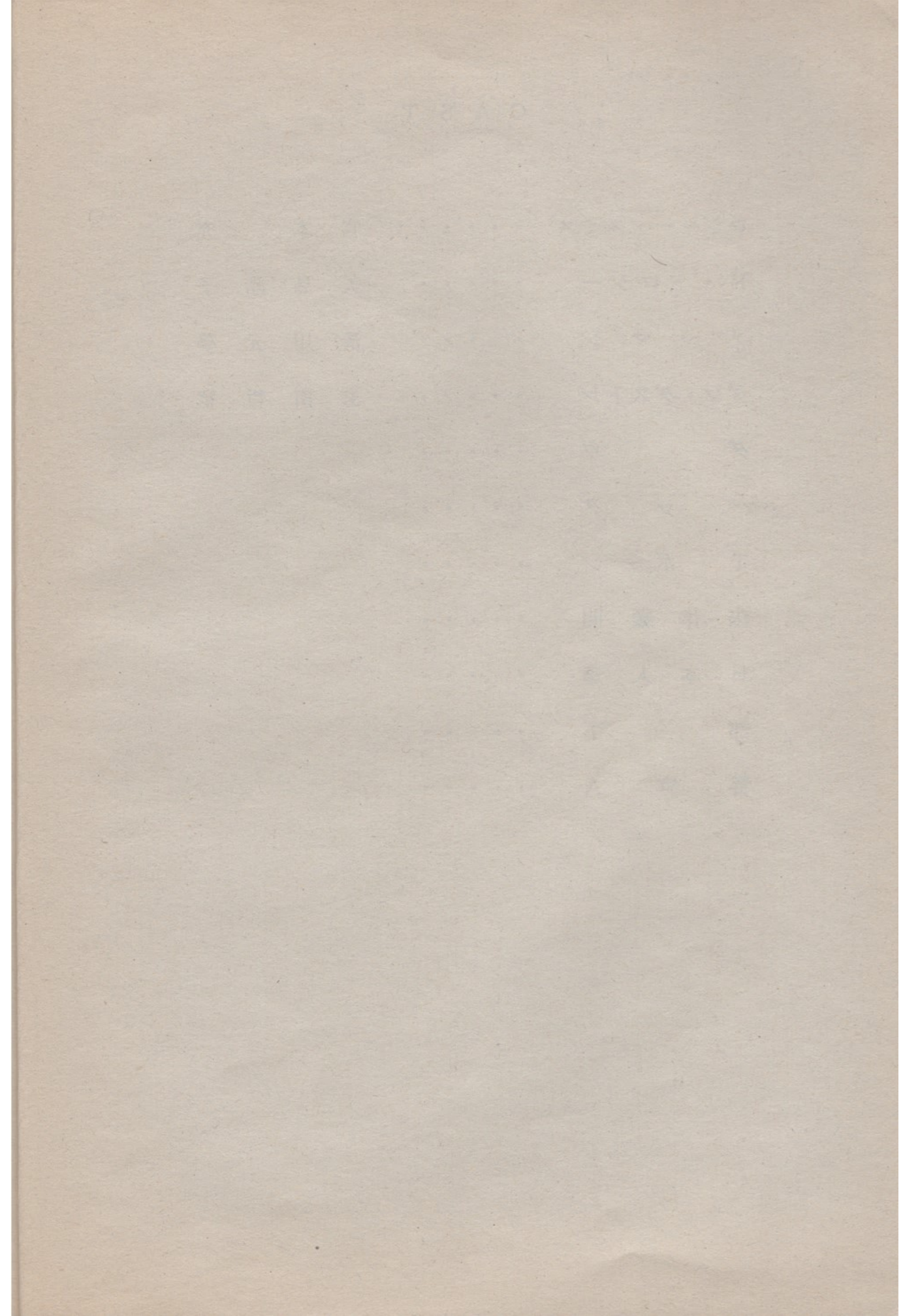
脚 本 小 中 千 昭
絵コンテ
演 出
キャラ作監
メカ作監
制作進行 佐 野 正 衛



ACT 18

The Great Villain

THE GREAT VILLAIN
ACT 18
THE GREAT VILLAIN
ACT 18
THE GREAT VILLAIN
ACT 18



画面	音声
<p>1 水に映る刑務所とPU 刑務所(夜) 雷鳴轟く</p>	<p>(SE) ザ ← ピカッ、ドドオオン! ← ピカッ、ドオオン!</p>
<p>2 その一角、特別北塔 TU 3 鉄格子の窓から手をのぼしているダヴ</p>	<p>(SE) ゴロゴロゴロ</p>
<p>4 PANTU ベッドの陰で 作業中のベック</p>	<p>ダヴ 「ねー、兄貴イイ、ホントにホントに大丈夫なの？」 T・ボーン 「は：はやくして：」 ベック(潜) 「うるせえんだよ」</p>
<p>5 俯瞰 PD 寝そべって作業を続けるベック</p>	<p>ベック(潜) 「へっへっへっ：何が懲役723年だ！この俺をこんな目にあわせやがったあのカラス野郎」</p>

6	稲光にびくつくダヴ ベックの方を見遣る ベック I N T B	7	俯瞰 T・ボーン コンソール機とケーブル	9	マヒさせる様な仕草を見せるベック P D かがむ	10	自分の持つ物を見直すダヴ	11	ベックなめ青ざめるダヴ
(S E) ドオオオン ダヴ 「ひっ： 兄貴い？」 ベック 「さあ来い、あとは雷さえ直撃してくれりやあ脱獄できるぞオ」	T・ボーン 「カミナリイ？」 ベック (off) 「そお、この床下には警備ネットワークが走ってんだ」	ベック 「そいつを麻痺させてやるのサ。 ← どおだ？ 天才的だろオ」	ダヴ 「へ？ …じゃ…じゃあ、あたしを避雷針にしようって事」	ベック 「しっかり雷を捉えろよ！」 ダヴ 「じよ… ~					

<p>手をひっこめる 避雷針を放り出す</p>	<p>12 とんでく避雷針を掴む手</p>	<p>13 ダヴの胸ぐらを掴む 引き寄せ、避雷針握らせる</p>	<p>14 PANTB T・ボーンの上で暴れる2人</p>	<p>15 もがいている避雷針持つ手 かなり大きな雷が走る</p>
<p>冗談じゃない！ 死にたくないわ！ ベック 「あッ！！」</p>	<p>(SE) ハッシ！</p>	<p>ベック (off) 「バっかつやつろう！ (on) 何やってんだてめえ っ。 しっかり持ってる！ ダヴ「ひい とっ」</p>	<p>T・ボーン「☆□○!! (AD)」 こっから出たくねエのかあ??」</p>	<p>ダヴ (off) 「(なさけなく) 死体で出たってしよ うがないじゃい！ ねえ、T・ボ ン？」 (SE) ピカツ、ド——ン！ ダヴ・T・ボーン (off) 「ぎゃあああつ」</p>

22	21	20	19	18	17	16
刑務所全景 停電になる F.O	壁に落ちたベツクの影 アフロヘアーになつていく 痺れたまま驚愕のベツク IN	コードの両端を持ち、体で つないでいる	直撃する雷	断線したコードにダイブす るベツク	コード切れる	ベツク 視線を移すと気付く 切かぞうなコードに気付く
(SE) ボスン…	ベツク (off) → (on) 「あああああ〜〜〜」 ← ぞっそうだったのがあ〜〜	ベツク 「オレは自由になるぜえ〜！」 ダヴ・T・ポーン 「(同時に) うぎやああああ」	(SE) ピシャ——ン！ ダヴ・T・ポーン (off) 「うぎやあああつ」		← ベツク (off) 「ちくしよオオオ〜〜」	ベツク 「来たか！」 「ん〜〜〜」 「!!」

29	28	27	26	25	23
<p>突如鳴るアグレッシブルな ピアノのメロディー 耐えきれなくなるロジャー</p>	<p>ボトルなめドロシー ドア閉まる</p>	<p>だらしない寝顔のロジャー</p>	<p>オフィスにロジャーの姿なし PU ベッドに塊</p>	<p>ロジャー邸 PU</p>	<p>F1 パラダイムシテイ全 景(朝)</p>
	<p>(SE) バタン ロジャー(off) 「くか——くか——」</p>	<p>ロジャー 「くか——」</p>	<p>ロジャー(M) 「——仕事を——」 ← ムニヤムニヤ……」</p>	<p>ロジャー(M) 「この街、パラダイムシテイ、私は 必要とされる仕事を——」</p>	<p>ロジャー(M) 「私の名はロジャー・スミス——」</p>

37	36	35	34	33	32	31	30
<p>運転するロジャー 窓にうつり込むニセ富士山</p>	<p>グリフオンのハナ面 ゲートが背動でIN</p>	<p>無言で立ちつくすドロシー</p>	<p>立ちつくすドロシー</p>	<p>俯瞰 縛られているピアノ</p>	<p>不機嫌そうに運転している ロジャー 欠伸</p>	<p>俯瞰 高速を走るグリフオン</p>	<p>乱暴にドアを開ける</p>
					<p>ロジャー(M)「それが自由な人間というものだ」 (少し間) ロジャー「ふあゝあ」</p>	<p>ロジャー(M)「たまには昼過ぎまでゆっくり眠っていたっていい」</p>	<p>(SE) バ——ン</p>

44	43	42	41	40	39	38
「んっ」となるロジャー	同時に顔を上げる一同 脇にズレて先を促す三人	<i>おんそかにおいをするロジャー</i> ぎこちないロジャー	三人の東洋人が出迎える	本社建物 PD	物 グリフォンよりPU本社建	PAN ドーム内にすべり 込むグリフォン
ロジャー「！」	法律顧問「ドーズ、ドーズ、プリーズ」	ロジャー「……」		パラダイム・シティのドームを建設 した最大手建設業社	ロジャー「内側と外側、二つにこの街を分けた もの」	ロジャー(M)「今日の依頼人はヨシフラ・ヤカモ ト・インダストリーの法律顧問だ」

51	50	49	48	47	46	45
ロジャー邸・食堂 ロジャーの席	長い長い廊下の果てへPAN	苦笑しつつ行くロジャー カット尻、タメ息しつつ <i>肩をすしめる</i>	ニコニコ先を促す法律顧問	廊下を歩く一同 見回しつつ向くロジャー	畳の上を歩くロジャーの足	ビョーブの文字
	ロジャー(M)「そして、私は消息を絶ってしまっ た」		法律顧問「ドゾドゾコチラへ、プリーズ リーズ」	ロジャー「ところで——さっきの文字、何て書 いてあったんですか？」		

<p>64</p> <p>ノーマンUP</p>	<p>62</p> <p>(夜)ピアノの前に佇むドロシー カット尻、振り向く</p>	<p>54</p> <p>スープ鍋を見るノーマン</p>	<p>53</p> <p>ドロシー</p>	<p>52</p> <p>俯瞰 座っているドロシー 立っているノーマン</p>
<p>ノーマン「はあ…しかし、私共には一切、その様な——」</p>	<p>(SE) (小雨) ザ——ッ</p>	<p>ノーマン「その様ですな。(鍋を見て)しかし、いっお戻りになられても、温かいスープをすぐお出しできるようにしておくのが、わたくしの務め……」</p>	<p>ドロシー「今夜はもう、ロジャーは帰って来ないと思うわ」</p>	<p>(しばし間) ドロシー「ノーマン」 ノーマン(背)「なんです? ドロシー」</p>

71	70	69	68	67	66	65
ダストンの目のUP <i>帽子のつばがけがうるしをく</i>	ドロシーUP	キツと見据えるダストン	ドロシー 無表情ながらも	ダストン 少々困惑気味	ドロシー	詰め寄っているダストン そこへ降りて来るドロシー 気が付くダストン 帽子を上げて挨拶
ダストン「ロジャー・スミスが」	ドロシー「誰が？」	ダストン「誘拐されたんだ」	ドロシー「何があったの？」	ダストン「皮肉なものだな。 本来は当事者間で交渉をするのが、 彼の仕事でもあるのに」	ドロシー「こんばんは、ダストン大佐。どうなさったんですか？」	ダストン「だから連絡があったのかと—— ! お：夜分に失礼」

77	76	75	74	73	72
PU もがくロジャー メカが顔半分にはまる 逆からも ランプが動きまわる	何かを握っているダストン 手をゆるめるところぼれる PD ロジャーのネクタイ	拳を突き出してるダストン	ドロシーIN ダストンのパンチIN 反応ナシのドロシー	閉じられるダストンの臉	ドロシーの目のUP
ロジャー「う…くっう… うっ げっ フゴゴゴ」	(SE) シュルルッ		ドロシー「確かにロジャーの帰りは遅いわ。でも、どうして誘拐だなんて…」 (SE) ビュッ ドロシー「…」	ダストン「わからん」 (間)	ドロシー「誰に!？」
(SE) ガコ—ン (SE) ガコ—ン (SE) ピ—					

81	80	79	78	
怒っているロジャー	リフト降下しきって ポンと降りるベック ロジャーに歩み寄る	降下してくるベック PU	頭蓋骨計マシーンが作動 磔で動けないロジャー TB INするアフロヘア 降下していく	
ロジャー「フゴフゴフゴ——ッ（私を放せ、ベック！）」	(SE) (リフト降下音) ギュウウン ベック 「これまでは、こうした営利誘拐事件じゃあ傍観者でいたんだよなあ。 たまには当事者になるのも悪くなくなるう？」	ベック(off)と(on)「ざまあねえせ、パラダイムシテイいちのネゴシエイターさんよお」	ロジャー「フゴフゴフゴ——ッ！」 (SE) ウイインピコピコピコ ベック(潜)「ひゃーっはっはっはっはっはっ」 (SE) (リフト音) グイ——ン	—— ピポピポピポ ～

<p>87</p> <p>写真を撮りまくる日本人達 PAN 芝居気たっぷりに 讚えるベック</p>	<p>86</p> <p>目だけマジになるロジャー ストロボが思考を断ち切る</p>	<p>85</p> <p>ベック</p>	<p>84</p> <p>俯瞰 解説するベック</p>	<p>83</p> <p>日本人達をひきつれて来る ダヴとT・ボーン</p>	<p>82</p> <p>俯瞰 ベック のりだしてからかう バカにして笑う</p>
<p>ベック 「いやあ、あなたがた のテクノロジーは素 晴らしい！ コア・</p> <hr/> <p>(SE) パシヤ パシヤ パシヤ</p>	<p>ロジャー(M) 「なぜ…？ ソレを知っている…」 (SE) パシヤ</p>	<p>ベック 「ようするに、操縦者です」</p>	<p>ベック 「みなさん、見てやってください。こ の悪役ヅラを！ これがパラダイム シティの夜を恐怖に染める悪のメガ デウス、ビッグオーのドミナス」</p>	<p>(SE) ゴロゴロ 日本人達 「(AD)」</p>	<p>ベック 「ああん？ なーんでーすか——？ ぎやはははは」</p>

<p>91</p> <p>わめくロジャー ライトの回転速くなる</p>	<p>90</p> <p>ベック のりだしてニンマリ</p>	<p>89</p> <p>言葉巧みなベック</p>	<p>88</p> <p>一斉に向き、領く日本人達</p>	
<p>ロジャー「んぐぐぐう……」</p>	<p>ベック 「そのお膳立てがもうすぐ、 (ゆっくり)揃うのですよお」</p>	<p>ベック 「私はあなた方の技術を、パラダイム 社により、効果的にアピールし、プ レゼンテーションする事を約束した ！」</p>	<p>日本人達 「ハイ、ハイ」</p>	<p>テクノロジーがブラ ックボックスである メガデウスなどを、 現代によみがえらせ るなんて、神に抗う 行為ですとも、えく え」</p> <p>パシヤ</p>

96	95	94	93	92
<p>立ち、指示を出す興奮気味のダストンのダストン 2人の向こうを通り過ぎるドロシー</p>	<p>ダストンを見るノーマン ダストンを見るノーマン</p>	<p>P A N 機材の準備中 カット尻、電話鳴り出す</p>	<p>逆探と録音の準備している 警官達</p>	<p>ロジャー邸・ペントハウス ピアノなめ外の様子</p>
<p>ダストン「い、いいかね。こういう時は落ち着きが肝心だ！ 決して犯人の言うことに逆らってはいけない」</p>	<p>ダストン「う：」 ノーマン「はて：」 「どう返事したらよろしいでしょうか？」 ダストン「う：」</p>	<p>(S E) ジリリリリリ ←</p>		

1 04	1 03	102	101	100
<p>納得いかない</p> <p>振り向くダストン</p> <p>振り向くノーマン</p>	<p>再び凍るダストン</p> <p>説明しようとするが</p> <p>(子供に説明する感いで)</p> <p>スタスタ行くドロシー</p>	<p>ドロシーUP</p>	<p>ドロシーを見つめる2人</p>	<p>黙っているドロシー</p>
<p>ノーマン「ほほう、ロジャー様もきつとお喜び でしような」</p> <p>ダストン「ちよつと待て！ 待ってくれ！ そ んな事でいいのか!?</p> <p>お嬢さんがいくからその、力が強いア ンドロイドだからって……」</p>	<p>ドロシー「(歩きつつ) 以降の犯人との交渉は 私がするわ」</p> <p>ダストン「なっ!?</p> <p>いいかね？ そもそもロジャーの誘 拐をつきとめてきたのはこの……」</p>	<p>ドロシー「警察には話さないと約束したから」</p>	<p>ダストン「どうした!?! なぜ何も言わん！」</p>	<p>ドロシー「……」</p>

110	109	1 08	1 07	106	1 05
マネするロジャーロボ	ムカムカしているロジャー	本物のロジャーと対峙しているロジャーロボ 驚きの顔上げてく のりだしてじっくり見る 力ためて 叫ぶ	ロジャー 我にかえる PU Q P A N 目の前に自分が	振り返るドロシー	ピアノの前に立っているドロシー
	ロジャー「くうう…	ロジャー「…… あ、あ……あ ううくく ンンン… おい！ マネすんな！」	ロジャー「ン… ンン…？ ぎよっ！」	ドロシー「そう」	ダストン(off)「R・ドロシーがネゴシエーターだと!!?!」

1 18	1 17	116	115	114	113	112	111
あつという間に表通りに出ていく	飛び出す自転車のドロシー着地して急ターン	ものすごい勢いで回る車輪	ゆっくり開くシャッター	ロボ(カッターバック)	ロジャー(カッターバック)	マネするロジャーロボ	むかつき絶高頂のロジャー
		(SE) ギヤギヤギヤギヤギヤギヤ	(SE) ゴゴゴゴゴ		ロジャー「(叫ぶ)ベエエエツクウウウウウ ←	「 ←	ロジャー「ぬううう ←

1 25	1 24	123	1 22	1 21	120	119
大騒ぎ中のベック達	顔上げケタケタ笑うベック	P A N 貴賓室の壁	荷台にアタツシユケース	腕組みをしてドロシーを見つめるダストン	猛スピードで行く自転車 ちよい遅れて追うパトカー	鉄板を踏んでいく自転車

<p>ダヴ</p> <p>「でも、このままヨシフラ・ヤカモトの連中、だまし続けられるかしらん。ねえ、ベックの兄貴」</p>	<p>(on)</p> <p>ひしやしやしやしやしや」</p> <p>トなんだ！</p> <p>一石二鳥だぜ？ 俺はなんてスマー</p>	<p>← ← ← ←</p> <p>(SE) ガ</p>	<p>ベック (off)</p> <p>「カラス野郎に無愛想なアンドロイド、おまけに金だ。」</p>	<p>(SE)</p> <p>ガコ——ン</p>
---	--	------------------------------	--	--------------------------

129	1 28	1 27	1 26
懐中時計のUP	懐中時計を見るベック 宙を見てニターリ	体制戻すベック PAN 横からT・ポーン	巨大徳利でどつくベック しっくりいかないダヴ
<p>(こぼし)</p> <p>←</p>	ベック 「そろそろガラクタ人形が、あいつの しゃべり方を学習してる頃だあな	ベック 「ま、いい：どうせそう長々とだまそ うだなんて思ってたやしねえ」 T・ポーン 「そんじゃ兄貴：じゃなかつた博士、 どうすんの？」	ベック 「このタコ、ベックと呼ぶなっ」 ベック 「私はベックリン博士だっ」 ダヴ 「そ、そうだったわね。 なんか博士って呼ぶの、抵抗がある けど：」 ダヴ 「げっ」 —— (SE) ゴツ

1 36	135	134	133	1 32	1 31	1 30
トラックO U Tすると 見えてくる自転車ドロシー	ロジャー	同じくロジャーロボ	ロジャー ワナワナ	鏡と口喧嘩状態の2人	もがくロジャー 向かいあう者に気付き 怒る(実はロジャーロボ)	時計の竜頭を拘束具にこすりつけてるロジャー T B
(S E) ゴオオオオツ	1分1秒とて私自身が許さない!	← こんなところにいるのは	← ロジャー「もう我慢ならない!	ロジャー「私の真似をいつまで続けるつもりなんだ!!」	ロジャー「うぐぐ… ん? いいかげんにしないか!」	(S E) キリキリキリ

142	1 41	1 40	139	1 38	1 37
ビッグオーを呼ぼうとする	力まかせに腕を外す PAN 時計を口元に持つ てくるロジャー	レーザー発射 赤くなつて行く拘束具 タイマーOFF 少し力を入れるとヒビ入る	やったぜロジャー！	竜頭を回すロジャーの手。 尻、とび出すムーブメント 側面にレーザー発射口	余裕の自転車ドロシー <i>奥からダストンのパトカー達 おりにかけてくる</i>
ロジャー「ビッグオー！」	(SE) バキツ ロジャー「お別れだな、出来損ないのアンドロ イド君！」	(SE) ビシ ツ <hr/> キチキチーン!!	ロジャー「よしっ！」	(SE) キリ、キリ… ロジャー(off)「くう…く…」	(SE) (ペダルこぐ音) シヤカシヤカシヤカ シヤカ

1 49	148	1 47	1 46	145	144	143
右腕の拘束具も外しにかかっているロジヤー	キヤッチするベック	ヨーヨーの先にアフロ男のシルエツト	時計を直撃するヨーヨー外れる時計、焦るロジヤー。ヨーヨーに吸いついてOUT	そこへ突如来るヨーヨー	目見開き見上げるロジヤー	同じくロジヤーロボ
(SE) ガシヤツ ロジヤー「くっ」	ベック 「いただいたぜ!!」		(SE) ゲシツ ロジヤー「なっ!!」 (SE) カチン! シュツ	(SE) キュルルルル	ロジヤー「!？」	← 「

1 55	1 54	153	1 52	1 51	1 50
ロジャーなめロジャーロボ に手をかけ下げるベック	時計みせびらかしながらロ ジャーの横を通過する	ロジャーに近寄るベック	へろへろとつとずり落ちる その向こうで笑うベック	駆けていくロジャー 上から透明な壁がIN ブチあたるロジャー	着地して駆け出すロジャー ぶつかり回るロジャーロボ
	ベック 「今度はお前が恥をかく番だぜ」 ロジャー 「何!？」	ベック 「時計だったとはなア…」	ベック 「ギャーっははははは」		

1 60	1 59	1 58	157	1 56
P A N 助手席で腕組みの ダストン	涼しげな顔のドロシー 走る自転車ドロシー 続くパトカー 後ろに治安維持軍装甲車	ドームにすべり込んで行く ドロシー P A N 続くダストンのパトカー	暗がりに光るふたつの目	ロジャーロボの前に時計を かざすベック 叫ぶロジャーロボ
部下 (無線) (on) 俺は絶対にそんな事認められない…… (off) 「ダストン大佐！ メガデウス が出現しました！ あの黒いメガデ ウスです！」	ダストン (off) 「(ブツブツと) R・ドロシーがネ ゴシエイターだとオ？」	(S E) ブロロロ……	(S E) クワツ	ベック 「ホイッ、兄弟」 ロジャーロボ 「ビッグオー！」

166	165	1 64	1 63	162	1 61	Q T U
のりだすロジャー	ノシノシ歩くビッグオー	俯瞰からおきあがりのけぞる様にアオリになるドーム外に佇むビッグオー	使われなくなつたバス踏みつけるビッグオーの足	かまわず走る自転車 迫る	俯瞰 スリップするパトカー T B 他の車もスピン	無線に叫ぶ
ロジャー「ビッグオー！」	(S E) ブーンズーンズーン	(S E) グワツキン ← ←	(S E) ズーン!	(S E) ギャリギャリギャリ	ダストン (off) 「止まれえっ！」 (S E) キキキキキキ (S E) キイイキイイイガガガガ	ダストン「何いッ!？」

1 71	170	1 69	1 68	1 67
歩き続けるビッグオー	ガラス越しのロジャー	走るバギー上のロジャーロボ ボ P U	俯瞰 バギーを追いかけて いるビッグオー	モニターとTB ベック 頭をコンコン
(SE)ズーン、ズーン、ズーン ベック(off)「このままアイツはー」	ロジャー「ビッグオー…」	ベック(off)「単なるコピーじゃ ねえ。完璧にお前 の声であのメガデ ウスを呼んでいる んだよ」	ベック(off)「お前の頭の骨格と 声帯を完璧にコピ ーしたんだ」	ロジャー(off)「なぜだ!？」 ベック「けっへっへっへっ… ココがちがうんだよ、ココガサ」
		ロジャーロボ 「ビッグオー、 ビッグオー、 ビッグオー」	(SE)ズーン ズーン ズーン	

177	176	175	174	173	172
ニタニタベック	焦るロジャー	PAN 海に向かっている	PU ロジャーロボについてくるビッグオー	PAN ガラス越しのロジャーベックもガラスの側へ寄る	悔しがるロジャー
ベック「ヒツヒツヒツヒツ」	ロジャー「くう…」	(こぼし)	ベック(off) 「あの薄らバカでかいだけの黒いメガデウスは、無様に海に沈んでオシマイさ ロジャーロボ「ビッグオー、ビッグオー」	ロジャー「そんなことはさせない！」 ベック 「させねえだど!? そのザマでどうやって止めるんだよ？」	ベック(潜) 「呼ばれるままに南の果てまでトロトロ歩いていくさ」

183	1 82	1 81	180	1 79	1 78
ベックのUP 目へTU	海ポチャのロジャーロボ TB 崖 ^ビ つぷち INするビッグオーの足	落ちていくロジャーロボ	ロジャーの目のUPへTU	海に接近するビッグオー 崖 ^ビ から飛出すロジャーロボ 落ちてくる	海に向かうロジャーロボ ビッグオーの影が ^ビ 地面に映る
ベック 「フ…」	(SE) ズー——ン (SE) ザ——ン!	ロジャーロボ「ビッグオー、ビッグオー」	ロジャー「！」	(SE) ズーン、ズーン、ズーン (SE) ビョン! ロジャーロボ「ビッグオー、ビッグオー」	ロジャー(臂)「ビッグオー、ビッグオー、ビッグオー」 (SE) ズーン、ズーン

1 89	1 88	187	1 86	185	1 84
ロジャーに詰め寄るベック	モニターを見ている2人 強気のロジャー	なんでやねんのベック	片足立ちで止まっているビ ッグオー P U	りきんでいるロジャー	最後の一步を出すビッグオ ー ギリギリの所で止まる
ベック 「うるせえ！ お前が不利な事にかわりはねえ」	ベック 「なぜだ!？」 ロジャー 「フ：ただ名を呼ぶだけのいびつなニ セモノになど、ビッグオーは従わな い」	ベック 「な…」	ロジャー (off) 「止まった…」	ロジャー 「と…」	

1 92	1 91	1 90	
<p>驚いているロジャー 前に横入りのベック ロジャーを挑発</p>	<p>どっかにぶつかる自転車と ダヴ、T・ボーン 手を降ろすドロシー</p>	<p>ビツクリのベック 2人を投げすてるドロシー</p>	<p>ダヴの声に振り向く 反応するベック あけにヒラレボカーン</p>
<p>ロジャー「くだらないコトを言うな」 ベック「大事な大事なドロシー、お前の恋人か？（笑いつつ）」 ロジャー「ドロシーがネゴシエイター？」 ベック「フン、これで役者は揃った。」</p>	<p>(SE) ガシャアアアア ダヴ・T・ボーン(off)「みぎやああつ」 ドロシー「思ったより元気そうね、ロジャー」</p>	<p>ベック「げっ！」 ダヴ&T・ボーン「うぐらあ……(AD)」</p>	<p>ダヴ (off)「アニキ……」 ベック「おつ、やつとネゴシエイターが到着した……」 か……」</p>

1 98	1 97	1 96	1 95	1 94	1 93
不安定なポーズで止まっているビッグオー 少し崩れる足元	しばし見つめあう2人 ドロシー 淡々と 脱力するロジャー	ロジャー びっくり	ドロシー	ガラス越しのロジャー ガラスに手をつけて訴える	ドロシー
(SE) ガラ、パララ：	(間) ドロシー「冗談よ。雰囲気をなごませるための」 ロジャー(背)「……」	ロジャー「(早口気味) R・ドロシー・ウェイ ンライトツ!!」	ドロシー「わかってるわ。悪人にまんまと囚 われてしまったのでしよう？ 私の 愛する人が」	ロジャー「ドロシー！ 君まで何を： この状況が君には判っているのか!？」	ドロシー「あらロジャー、くだらないなんてひ どいコト言うのね」

ベック
レ

2 03	2 02	2 01	2 00	1 99
俯瞰 時計まみれのベック あらためてビックリ 横切るドロシーの下半身	ベック アングリ ふりそそぐ時計の雪崩 ベックをひっくりかえす	ケースなめドロシー フタが開き、中には腕時計	俯瞰 ケースを見るベック	ベックの目の前に アタッシュケースを出すド ロシーの手
ベック 「うぐ… こいつあ…」 (SE) カツカツカツ	ベック 「あん？ うわっ」 (SE) ザ——ッ (SE) デ——ン！	ドロシー 「これあげるからロジャーを返して」 (SE) バクン	ベック 「それか？」 ドロシー 「交渉よ」	ベック 「で、約束のブツは？ う…」

2 07	2 06	2 05	2 04
<p>横で拍足しているベック</p>	<p>ドロシー</p>	<p>凍っているロジャー <i>しどろもどろ</i> <i>みし落ちつく</i></p>	<p>ロジャーのそばへ寄るドロシー 無機的に手を上げる かまえる 正拳突きでガラスを破る のけぞるロジャー</p>
<p>ベック 「かっかっかっかっ。ロジャー・スミスを恋人のアンドロイドの前で辱め、その上で黒いメガデウスの制御ユニットも戴く！」 <i>と</i> パコパコパコパコ (SE)</p>	<p>ドロシー 「アドバイスありがとう。でも私は、あなたの仕事を奪うつもりは無いの」</p>	<p>ロジャー 「(しどろもどろ) ネゴシエーターが暴力的な実力行使をするのは、最後の時だぞ……」</p>	<p>ロジャー 「ドロシー……」 (SE) (アクチュエーター) キュイーン ウイン (SE) バリン！ ロジャー 「うわっ」</p>

2 13	2 12	2 11	2 10	2 09	208
<p>クレーンで上昇していくベ ック</p>	<p>俯瞰 見ているロジャー 浮かぶドロシーを捕まえよ うとするが間一髪失敗 上昇していくドロシー</p>	<p>腕時計のUPから 一斉に宙に舞い上がる PU 巨大電磁石に貼り付く時計</p>	<p>脱出途中のロジャーとドロ シー 反応する</p>	<p>時計の山に埋もれているリ モコン 赤いボタンをカカトで押す</p>	<p>ニンマリベック</p>
<p>ベック 「コイツの制御系も利用させてもら うぜえ」</p>	<p>ロジャー 「ハッ」 (SE) バッ ロジャー 「ドロシー！」</p>	<p>(SE) ザ——ッ カツカツカツカツカツ</p>	<p>ロジャー・ドロシー 「！」</p>	<p>ベック (off) 「よっせ (SE) カツ あら</p>	<p>ベック 「フフーン」</p>

2 24	2 23	2 22	221	2 20
状況を把握するベック もがきまくる 上昇するドロシーを掴むロ ジャーの手 I N	何かに当たって止まる 苦痛のベックの顔面へ P U ふと思ひ立ち	キョロキョロするベック 首にまきつくブーメラ ベックを連れて上へ	とんでいくブーメラ ン	P U ベックを見やるドロ シー 発射されるブーメラ ン
ベック 「ぶら——ん。 どわっ、ぐわっ、このっ、くびくっ」	(S E) ベック 「ガチン！ もき——！ うう？」	ベック 「あ……ああん？ あごっ がっ」 (SE) しゆるん ぶばっ	(S E) ギュオオオツ	(S E) グググググ ドロシー 「進歩ないのね」 (S E) ボウツ ベック 「!?」

228	2 27	2 26	2 25
<p>情けない表情のベックUP</p>	<p>電磁石にひつついているベック リモコンをとりだす ボタンを押すはずが リモコンがよけてしまう 力まかせに戻していくが 磁石にはりついてしまう 「やっちまった」 無理矢理はがそうとするが 全力でひっぱってみるが</p>	<p>歯をくいしばり ぐぐーっと引き寄せる</p>	<p>ワイヤーにつかまっている ロジャー</p>
<p>ベック 「とれねえーっ！」</p>	<p>ベック 「ヌ！」 ← そうはさせるかよっ、フツ ひとまず磁力を解： ：除!?! とっ、ぬぬぬぬ ぬ、 がっ!! ダ——ッ! くうくうっ、いぎぎぎぎ ふんぐくくっ!!」 (SE) メキメキメ キ (筋肉の音) (SE) ガチン!</p>	<p>ロジャー「くっ…」</p>	

2 33	2 32	2 31	2 30	2 29
<p>アオリ ロジャー ネクタイを受けとる</p>	<p>俯瞰 ロジャーにネクタイ を渡すドロシー</p>	<p>両手を放した為、絞まる首 手をそえて体制整え 再び強がる</p>	<p>電磁石にひつついているベ ック 頭つかえつつも 様々なジェスチャー</p>	<p>ドロシーの腰を引き寄せて カプセルの上に立たせるロ ジャー</p>
<p>ロジャー「君が私を助けてくれるとは…… お礼をしなくてはな」</p>	<p>ドロシー「はい、新しいネクタイ」</p>	<p>ぐっ！ ぬぬ： 奇跡を見せてやろう！」</p>	<p>ベック 「もうメガデウス量産なんてどうでも いい！ この天才ベック様が設計し、 ヨシフラ・ヤカモトのテクノロジ によって生み出された</p>	<p>ロジャー「大丈夫か、ドロシー」</p>

2 43	2 42	241	2 40	2 39	
トンネルから出るベックモ ービル	怪しい岩がふるえだす スライドすると奥にトンネ ルが見えてくる	顔上げて叫ぶベック <i>大がえを投げすて叫ぶベック</i>	運転席のダヴ フロントガラスに落ちてく るベック 体を起こすベック	ベックの下から とびだす重機メカのアーム 電磁石をつかみとる	はT・ボーン
(SE) ドウツ、ズドドドド	(SE) ゴゴゴゴゴ ズズズズ	ベック 「ファイナルツギヤザーだ!!」	(SE) ベー——ン! ダヴ 「うぎゃっ!」 ベック 「うぐぐ…」	ベック 「おう!」 (SE) ガチン! ボキン!	←

2 47	2 46	2 45	2 44
キヤップをはじき上げる 変型値ボタン押す	切り替わるダヴ 切り替わるT・ボーン かまえるベック のりだして	大きい門 ドリルがとびだす 出てくる重機メカ、横滑り しつつOUT 続くトレーラーメカ	走るベックモビル
(SE) パカッ ポチッ	(SE) ゴゴゴゴゴゴ ベック 「ヒヤッホーイ！ オレたちはヒーローだ！」 ダヴ 「そうよ！ 見せつけてやりましょ」 T・ボーン 「1回も練習してないのに……」 ベック 「いくぜええ！ 合体だああっ！」	(SE) ギヤギヤギヤ ズザザザガガガガガ (SE) ドガア アン ← ゴゴゴゴドドドドドドド	(SE) ズドドドドド ベック 「うおおおおっ」

<p>2 52</p> <p>運転席のUP フロントガラスが前にくる なんとか起きるT・ボーン <i>ヘッドラックのサインをする</i> <i>T・ボーン</i></p>	<p>2 51</p> <p>走るトレーラー 左右に別れたあと <i>起き上がる事件</i> PUのびる足 運転席が横回転する</p>	<p>2 50</p> <p>スピんかけるトレーラー <i>後ろ向きになり</i> <i>後部をスライドさせる</i> <i>起き上がる車体</i></p>	<p>2 49</p> <p>ハンドルきりまくるT・ボ ーン</p>	<p>2 48</p> <p>ダヴ ギアを特殊エリアに 入れる</p>
<p>(SE) <i>ズン!</i> T・ボーン「ふわあ〜」</p>	<p>(SE) ガガガガ： ガ——ツ ウイイイイイン ギユウウンガチン！ プシューツ</p>	<p>(SE) ギヤギヤギヤギヤ ← ガアアアアア グワツキン</p>	<p>T・ボーン「うりやあああつ」 (SE) キュルルルル</p>	<p>ダヴ 「フン！」 (SE) ガクト</p>

258	2 57	256	2 55	2 54	2 53	
トレーラーの上部を掴む手 アーム	走ってくる変型重機メカ カット尻、手をのばす	走ってくる変型トレーラー トレーラーの後方に回る重機メカ	走る重機メカ ネピン反転して	逆側の腕も変型する 飛び出す手 PAN にぎりしめられる	重機メカのドリルアーム ひっこむ 飛び出す手、拳になる	シャツターがガラスを覆う
(SE)	(SE)	(SE)	(SE) (SE)	(SE)	(SE)	(SE)
ガシツ	グイン ギヤギヤギヤギヤ	ゴゴゴゴゴ	ザザザザ ギヤギヤギヤ	ギリリリ… バシユツ	ギユルル ボツ、ギリリリ…	ガ——ツ

2 65A	2 64	263	262	2 61	260	2 59
固定パーツがはさみこむ PD 合体！ とんでくるベックモービル	俯瞰 眼下に立つロボ 翼がのびるベックモービル TU	ジャンプ！	昇っていくベックモービル	ジャンプ橋を昇ってくるベックモービル	背中 of タイヤを収納する	重機本体を持ち上げる腕 手を放すと自然落下で連結。
(SE) ガシイン！ シュパツ	(SE) シヤキイイン ゴゴゴゴゴゴ	(SE) ブオオオオオオオツ	(SE) ぎゅい い い いん！	(SE) ベック 「うおおおほおっ！」	(SE) ウユ——ン	← グイイイイイイン ガシヨン!! プシユーツ

2 68	2 67	2 66	265B
<p>ロジャーの声に反応</p> <p>指示を出すベック</p>	<p>コクピット内の3悪人</p> <p>笑ってりまハワフ</p> <p>ダグとイボーンのキャリフに反応して</p> <p>さうに高笑い</p> <p>笑いあたままで</p> <p>(笑) 4-1 2-1</p>	<p>土塀の陰でネクタイを結んでもらい終えたロジャー 時計を取り出すドロシー 「おお」つと喜ぶロジャー</p>	<p>目に浮かぶ神風の文字 グーッとものけぞり カブキつぽいみえを切る 決めポーズ</p>
<p>ベック 「よおし! 黒いメガデウスを海に沈めに行くぞオ!」</p> <p>ロジャー (off) 「そうはさせない!」</p> <p>ベック 「ああん?」</p>	<p>T・ボーン 「成功した〜」</p> <p>ダヴ 「カッコ良すぎるよ、アニキ」</p> <p>ベック 「かっかっかっかっ」</p>		<p>パパパパパ</p> <p>ベック (エコー) (off) 「ベック・ザ・グレート、RX-3!</p> <p>← あ、推参〜っ</p> <p>(SE) カ——ン!</p>

276	275	274	273	272	271	270	269
黒い影がせり上がってくる カッと光る目	ロジャーの背後の地面が 炸裂して 土が舞い上がる	のりだすベック	口のUP	時計を口に寄せて叫ぶ	そのUP	俯瞰 立ちつくすロジャー	前方に立っているロジャー
(SE) ズゴゴゴゴゴ カアッ	(SE) ゴゴゴゴゴ ド——ン! ザアアアア	ベック 「なにイ!?!」	ロジャー 「ショータイム!!」	ロジャー 「ビッグオー!」	(SE) カン!	(SE) カン!	(SE) カン!

2 82	281	2 80	2 79	2 78	277
バ ス ト シ ョ ツ ト の ビ ツ グ オ	水 面 に 映 っ た ビ ツ グ オ ー U P	し ま っ た ー ！ の ダ ス ト ン 慌 て て 部 下 達 に 指 示	穴 を 調 べ て い る ダ ス ト ン 報 告 す る 警 官 A	崖 ^{いし} の 上 に 大 き な 穴 周 り に 集 ま っ た 警 察 隊	ビ ツ グ オ ー が い た 崖 っ ぶ ち
		ダ ス ト ン 「 く く く … 引 き 返 せ ー ！ 」	警 官 A 「 ダ ス ト ン 大 佐 ！ 西 八 番 ド ー ム に メ ガ デ ウ ス が 出 現 し ま し た ！ 」 ダ ス ト ン 「 な に ー っ ！ ！ 」		

290	2 89	2 88	287	286	285	284	2 83
コクピットのロジャー	コクピットの3悪人のりだすベック	対峙する2大ロボット 岸辺で見守るドロシ	眺めているドロシ	水面に映った姿へ実体へPU	そのミドルショット	水面に映ったRX-3	水面に映ったビッグオーへ実体へPU
ロジャー「——ひとつ聞いておこう」	ベック「何て古臭え格好だあ、ビッグオーってばよお」						

2 97	2 96	2 95	2 94	293	292	2 91
グ ベックUPから ー ツと下がって	ビツクリするロジャー 少し目を細める	アゴ引いてニターリ	頭を指さすベック TU	反応するロジャー	ベック ニターリ	ロジャー
ベック 「安心しなー！	ロジャー 「私が……ドミユナス！」	ベック 「——メガデウスのドミユナスだとい う事の」	ベック 「俺の頭ン中でメモリーが突然浮かび 上がってきたんだよ。お前が——」	ロジャー 「メモリー!？」	ベック 「メモリーさ」	ロジャー 「なぜ私がビッグオーを呼び、ビッグ オーと共に戦う者だと知っていた」

302	301	300	2 99	2 98
俯瞰 前方に刀を向ける	刀を横に構える	素早く刀を上げる R X 3	交差して抜く 左右より剣のパーツ I N 合体、斬の文字出現 下がりつつ構えて ゆっくり回す 刀を素早く振るう	同じように OL 肩のパーツを掴む R X 3 剣パーツに手をかける
(S E) ビュオン！	(S E) ビュン！	(S E) ビュン！	(S E) ガシイイン ベック(off) 「見せてやろう！ 東洋の神秘を！」 (S E) ビシユツ シユシユシユシユシユ シユパツ	(S E) ガシツ (off) (エコー) お前についてのメモリーなど、今この瞬間に消えてなくなる！

310	309	308 B	308 A	307	306	3 05	304	303
撃ちまくるビッグオー	撃ちまくるビッグオー	撃ちまくるビッグオーをアップ	撃ちまくるビッグオー	ガトリング砲を射つ	開くビッグオーの右腕 TB	目に文字が浮かぶRX-3	回しながら手前に向ける	刀を体の前にもってくる
(SE) ダダッ	(SE) ズダダッ	(SE) ダダダダッ	(SE) ダダダダッ	(SE) ダダダダダッ	(SE) ジャツキイイン!	(SE) ペアアア!! ベック(エコー)(off)「ハア——!」	(SE) ビュビュツシヤキイイン	(SE) シユン!

3 16	3 15	314	3 13	3 12	311
<p>鉄格子の中の3悪人 護送車の車上の人となる</p>	<p>ビッグオーを見つめるドロ シー</p>	<p>コクピットのロジャー</p>	<p>カメラ撮りまくる人々 ゆっくり倒れるRX-3 倒れたとたんバラバラ 刀も割れる</p>	<p>黒い煙が晴れると 黒コゲの3悪人</p>	<p>爆発、RX-3は見えない</p>
<p>OL</p> <p>3悪人 「ホへへへへ（口パク不要）」 (SE) プロロロ——ッ</p>		<p>ロジャー「……」</p>	<p>(SE) パシヤパシヤパシヤパシヤ (SE) ギギギギ: ← ボキバキズズウウウン</p>	<p>(SE) しゅうううう: T・ボーン「あれ？」</p>	<p>(SE) ズドドドオン</p>

3 22	3 21	3 20	319	3 18	3 17
ロジャーを見て いるドロシ	運単中のロジャー 約束を思い出し ドロシーを見て ニッコリ	土手を走るグリフォン	走るグリフォン後部	見送る2人 ドロシーを見て るダストン 尻 ロジャーを 見るドロシー	護送車が去っ ていく TB 見送るロジャ ーとドロシー
ドロシー「(無言)」	ロジャー「! 何でも聞こう」	ドロシー(off) 「お願いがある って言ったの、 忘れてない？」	(SE) ゴ——		

	325	3 24	3 23
	<p>寢室で耐えているロジャー</p> <p>To Be Continued...</p>	<p>思う存分弾くドロシー ハタキかけているノーマン</p>	<p>ピアノを弾きまくるドロシーの手</p>
	<p>ロジャー (off) 「ああっ」 (♪音楽このカット一杯)</p>	<p>ロジャー (off) 「…約束は約束…」</p>	<p>(♪サントラ19番目「RUN DOWN」)</p>

